

税金が創った私の夢

旭市立海上中学校3年 井手本 麻央

私は、中学生になってアスリートを食事の面で支える職に就きたいという夢ができた。そのように思うようになったのには二つの理由がある。

一つ目に、学校給食だ。私は、毎朝、献立表を見てから学校へ登校する。私が住む旭市では物語に登場するメニューが給食で出るものがたり給食、豚レバーを使った鉄人給食、千産千消（地産地消）デー、WASHOKUの日など毎日私を楽しませてくれる。そんなおいしくてバランスの良い学校給食が大好きだ。そして、私に食への興味を持たせてくれた。

二つ目に、家庭科の授業だ。栄養素や食についてたくさんのことを学んだ。バランスの良い食事を考えたり、食材に含まれている栄養素などが私たちの生命活動にどのように使われているかなどを学ぶのは陸上選手である私に大きな影響を与えた。授業を受けてから、家での食事が変化した。学んだ6つの基礎食品群をもとにバランスの良い食事を摂るようになった。これは競技力を向上させるうえでとても大切なことだ。バランスのとれた食事は強い体を作るとともにパフォーマンスの発揮につながる。しかし、私だけでできることではなく、母の支えもあった。私のために母も学び、毎日朝からバランスの良い献立を考えて私に食べさせてくれた。そのような母を見ているうちに、人を支えることの素晴らしさに気付いた。この二つのことが、おいしくてバランスの良い食事でアスリートを支えたいという私の夢につながった。

毎日、私を楽しませ、食への興味を持たせてくれた学校給食、これには税金による補助が賄われ、私たちは一食二七〇円という安さで食えることができています。私の夢につなげてくれた家庭科の授業、これは税金によって私たちの学校生活が支えられているから学ぶことができた。例えば教室にある机やイス、学ぶための教科書、調べるためのパソコン、先生がわかりやすく説明するための黒板など、学校には他にもたくさんの設備があり、それら全てに税金が使われている。調べてみると中学校では生徒一人当たり一年間で約一一二万円の税金が使われているようだ。

このように税金に支えられて私の夢ができた。これから進学していくうえでも税金に助けられるだろう。もし、税金の支えがなかったら、お金がたくさんかかり諦めることも増えて多くの人々の未来を変えてしまうだろう。しかし、税金の支えがあることで私の夢ができたように良い方向に未来が変わると思う。支えてくれている税金に日々感謝し、私は自分の夢を叶えたい。そして、社会人になったら納めるべき税金をしっかりと納めて、次は私が支える立場になりたい。